

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		千葉商科大学		設置者名		学校法人 千葉学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
商経学部	商学科	420人	高一種免(商業)	平成16年度	331人	14人	13人	7人
			高一種免(情報)	平成16年度			9人	
	経済学科	300人	中一種免(英語)	平成16年度	310人	10人	2人	0人
			高一種免(公民)	平成16年度			7人	
			高一種免(情報)	平成16年度			3人	
			高一種免(英語)	平成16年度			2人	
	経営学科	280人	中一種免(英語)	平成12年度	283人	2人	1人	0人
			高一種免(商業)	平成12年度			1人	
			高一種免(英語)	平成12年度			1人	
	政策情報学部	政策情報学科	200人	高一種免(公民)	平成20年度	162人	0人	0人
高一種免(情報)				平成13年度	0人			
入学定員合計		1,200人	合計		1,086人	26人	39人	7人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年7月11日（月）

実地視察大学：千葉商科大学

実地視察委員：岸田正幸委員、大坪治彦委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・ 2学部4学科で教員養成を行っている。
- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、概ね基準を満たしている。

<講評>

- ・ 商業高校における教育につながる教材を豊富に有している千葉商科大学ならではの教員養成を期待する。また、教員養成を教職課程担当の一部の担当教員のみが関わるのではなく、教科に関する科目を担当する教員も含めた全学的な位置づけとしてもらいたい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 「三言語」（自然言語（外国語）、人工言語（IT）、会計言語（簿記））を重視し実学を通して、「大局に立ち、どのような時代でも世の中をリードしてゆく未来創造型の人間」の育成を目標にしており、教育の創造を通して、我が国の中等教育の発展に貢献する人材の育成を目標としている。

<講評>

- ・ 教員養成に対する理念・構想が示されているが、今後ともそれを明確化・具体化させていくよう努めること。
- ・ 「教科に関する科目」を担当する教員についても、学習指導要領の観点を持ちながら授業の教授にあたること。
- ・ 英語の教員就職者数の実績等を踏まえ、千葉商科大学における免許教科「英語」の課程を置くことの意義等を再検討すること。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・ 同じ授業科目であるにも関わらず、担当する教員によって授業の内容が異なることは適切でないため、改善すること。
- ・ 教員採用試験対策を主目的とした授業については、当該授業科目の内容として適切なものに修正すること。
- ・ シラバスの記載については、全般的に見直しを図ること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・教職課程連絡委員会が各学部・学科との連絡調整を行っている。
- ・教育実習先については、原則として学生自らが確保することとしている。
- ・近隣の商科高校では受入数が少なく、地理的な面からも母校実習が中心となっている。

<講評>

- ・教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合においても、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。
- ・教育実習先として、附属学校の活用も検討すること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・地域連携ネットワークセンターが中心となって、教育委員会の後援により「キッズ大学」、「キッズビジネスタウンいちかわ」等の活動を行っている。
- ・市川市教育長から学校ボランティアの実施要望が出されている。
- ・現在、学校現場体験・学校ボランティア活動については市内の小中学校校長からヒアリングを行い、内容を検討した上で具体化させていく予定である。
- ・学校現場体験・学校ボランティア活動に関する授業科目は開設されていない。

<講評>

- ・「キッズビジネスタウンいちかわ」等のボランティア活動を教員養成課程において積極的に評価していくこと。
- ・学生が学内ベンチャー組織を立ち上げる取り組みを推奨している等、商科大学の特質を教職課程に活かし、「生きた経済」を学校において教えることができる人材を輩出してもらいたい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・「教職課程連絡委員会」が中心となり教職指導等を行っている。
- ・教員免許を希望する学生に対して、一年次から説明会を実施し、履修スケジュール等の指導を行っている。

<講評>

- ・教職課程担当の教員だけでなく、教職を希望する学生を全学的に支援できる体制を整え、教育実習のサポート等も遺漏なく行うようにすること。
- ・「英語教職課程履修者ポートフォリオ」は十分評価できる。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程連絡委員会という組織を置いている。

<講評>

- ・教職課程連絡委員会は企画・立案（人の登用、シラバスの変更など）までの権能が与えられておらず、連絡調整しか行っていないように見受けられる。
- ・教職課程を担当している特定の教員のみが教員養成に携わっているように見受けられる。大学全体として教員養成を行っているということを自覚して、教職課程連絡委員会が全学的な組織となるよう改善すること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職に関する図書は整備されているが、多くの書籍が図書館の地下書庫にあるため、学生の利便性を考えた工夫を図ること。
- ・引き続き、模擬授業室等における設備の充実に努めること。

